

インマヌエル中目黒キリスト教会 聖日礼拝2007.5.20.

メッセージ

ローマ書連講31

『主の御名を呼び求める者は
だれでも・・・』

ローマ人への手紙10章1-13節

竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙10章1-13節

- 1 兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。
- 2 私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。
- 3 というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。
- 4 キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。
- 5 モーセは、律法による義を行なう人は、その義によって生きる、と書いています。

- 6 しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、だれが天に上るだろうか、と言ってはいけない。」それはキリストを引き降ろすことです。
- 7 また、「だれが地の奥底に下るだろうか、と言ってはいけない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。
- 8 では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。

- 9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。
- 10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。
- 11 聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」
- 12 ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあらわれるからです。
- 13 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。

ローマ書連講31

メッセージ

ローマ書連講31

『主の御名を呼び求める者は
だれでも・・・』

ローマ人への手紙10章1-13節
竿代照夫牧師

主テキスト：

「主の御名を呼び求める者は、
だれでも救われる。」(ローマ10:13)

A. 自己義を立てたイスラエル

1. 同族の救いのために祈る（1節）

A. 自己義を立てたイスラエル

2. 知識によらない熱心（2節）



A. 自己義を立てたイスラエル

3. 「自分の義を立てる」誤り

(3-4節)

: (レビ記 18:5、ガラテヤ3:10)

B. 救いは身近にある

1. 行いによる救いの限界（5節）

B. 救いは身近にある

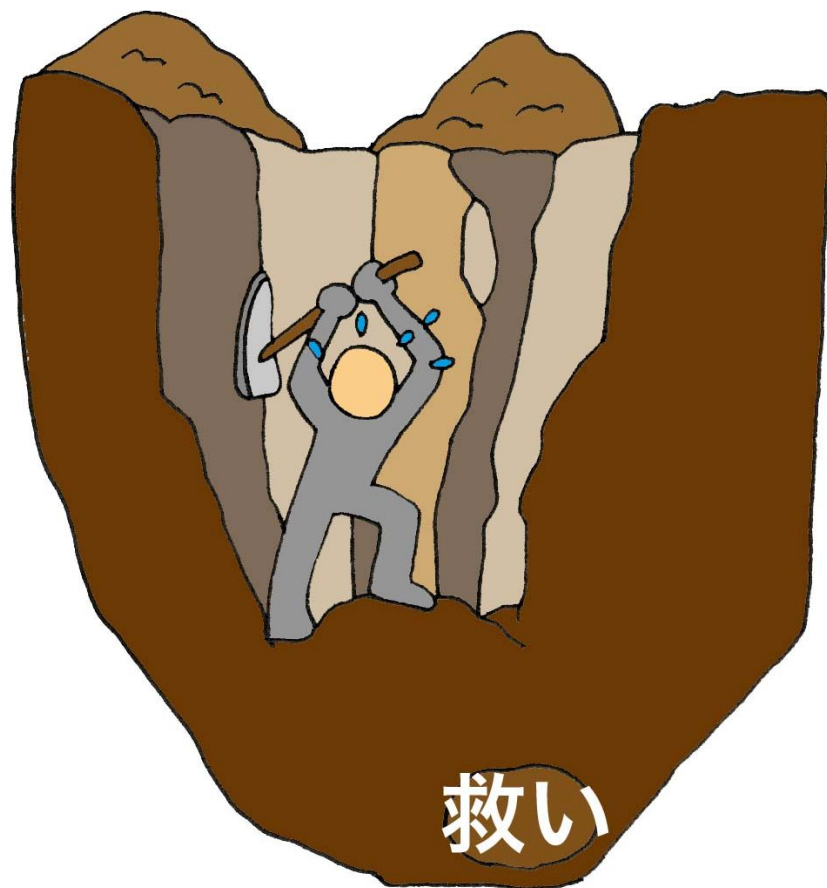
2. 救いは高いところにはない (6節)

: 申命記30:12



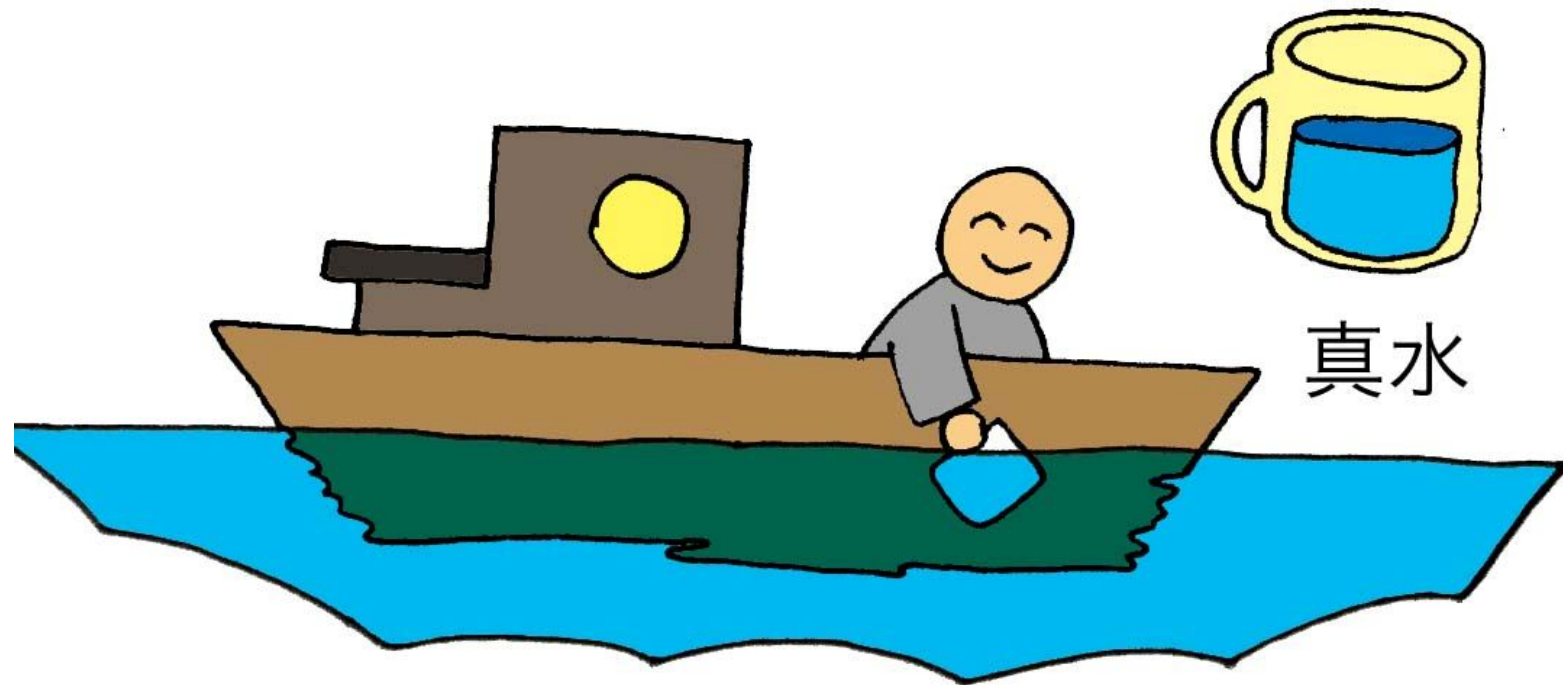
B. 救いは身近にある

3. 救いを深すぎる場所に考えても
いけない（7節）：申命記30:13



B. 救いは身近にある

4. 救いは身近なところにある（8節） ：申命記30:14



C. 救いの道

1. 告白と信仰によって（9－11節）
 - ・ イエスは主であるという告白
 - ・ 神がイエスを死者の中から甦らせて下さったことへの信仰

C. 救いの道

2. すべての人は同じ条件で

(12-13節)

: 人種・社会層・教育背景・性別など一切なく、「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」

(ヨエル2:32)